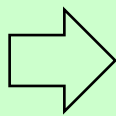


ももや独自の技術で製造したキウイのピューレで収益力を向上 ～紀の川市：株式会社 八旗農園～

経営体の概要

実施前：平成21年（個人経営）
基幹作物：もも
経営面積：0.2ha



現在：令和4年度（法人経営）
基幹作物：もも、キウイフルーツ
経営面積：1.95ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成21年にもも農家として新規就農した。就農当初は先輩の就農者から営農指導を受けつつ、ももの販売も一緒に行っていた。

平成26年にクラフトビールの製造会社から、もものビールを作りたいとの話があり、規格外のもも等を供給したことをきっかけにももの加工を始めた。当初は原材料を果実で提供していたが、果汁での供給を求められたため、搾汁事業を立ち上げ、(株)八旗農園を設立(H26.2)し、平成30年にももの生産部門を立ち上げもも栽培を開始している。国営事業により用水施設が改修され、安定的に用水が供給されている。

営農改善のポイント

①流通・販売の工夫

就農当初は、系統出荷でのみであったが、法人化した現在では、直売所が60%、法人との取引（ケーキ屋）が20%、ふるさと納税の返礼品が15%、その他が5%と多様な流通・販売形態となっている。

キウイのピューレは、独自の技術を有しており和歌山県の制度に「緑色キウイピューレの製造技術開発」として登録されている。



【自社運営の直売所】

②栽培技術の確立・向上

樹高を抑え作業効率の改善等に繋がる根圏制御栽培を4～5年前から試験的に導入している。通常、苗木の植栽密度20本～25本/10aであるが、根圏制御栽培は150本/10aと密植である。栽培上の一番のメリットは、樹高が低いため脚立がなくても収穫できるなど、作業効率が良い。また、早期成園化（通常5年～6年→3年程度）が図られ、さらに収量も多く1.3倍程である。



【根圏制御栽培のもも園】

③担い手の育成・確保

個人経営では持続的な経営が難しいと感じており、社員個人の果樹園も会社の経営農地とすることを検討している。

当経営体は農業実習生の受入や都会からの農業体験等の受入等の他、代表は市農業士会の幹事、専務は県指導農業士会副会長として、地域の担い手育成に貢献している。また、地域活性化への功績が認められ、県知事表彰を受賞している。

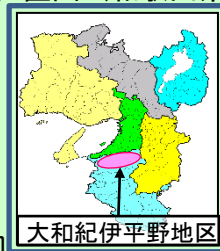


【R2 農林水産業賞（県知事表彰）】

事業概要

事業種：国営農業用水再編対策事業
関係市町：和歌山市 外4市2町
受益面積：5,633ha(地区全体：12,359ha)
事業期間：平成13年～平成29年
事業目的：用水改良
主要工事：ダム改修1箇所、頭首工改修4箇所、
揚水機場改修2箇所、用水路改修L=304km

位置図（和歌山県）



<問い合わせ先>

近畿農政局
農村振興部農地整備課
電話：075-451-9161
(内線2528)

(令和4年度調査時点)